



児童精神科の看護師が伝える 子どもの傷つきやすいこころの守りかた
 著者：こど看 発行：KADOKAWA 価格：1,540円
 著者について：精神科認定看護師。精神科単科の病院の児童思春期精神科病棟に10年以上勤める。現在も看護師として病棟勤務しながら、「子どものかかわりを豊かにするための考え方」をSNS等で精力的に発信中。メンタル系YouTuberの会所属。一児の父。

子どもにこんなこと、してませんか？

「自信を持たせよう！」と意気込む

「ほかの子(●●くん)はできてるよ」と言う

「できたね！じゃあ次はこれやってみよう」と励ます

「言わなきゃわからないんだからはっきり言いなさい」と促す

ほめるときの定番は「すごい！」「えらい！」「がんばったね！」

期待を裏切られたときにきつく叱る

子どもに不機嫌な態度をとって従わせる



➡これらはおすすめできません

合言葉は

「おすささいこうかよ」

おびやかさない

すぐに助言しない

しっせき(叱責)しない

さいご(最後)まで話を聞く

いこう(意向)を軽視しない

こどもが使う言葉を使う

うたがわずにいったん信じる

かんじょう(感情)を否定しない

よけい(余計)なひとことを言わない

知らず知らず「子どものこころ」を傷つけてしまわないように...
約800人の子どもと向き合ってきた児童精神科の看護師がお伝えします



先日、長男がスポーツジムに入会しました。今までも公共施設のトレーニングルームを利用したり、近所を10km程走ったりしていましたが、知人に誘われたことをきっかけに、入会を決めたようです。農業関係の仕事後に、まだ動くのか...という感じですが、体力があり余っているでしょう。

ボイストレーニングに行ったり、スポーツジムに行ったり、多趣味で何よりですが、「子どもができたなら、こんなこともできなくなるなあ」と、結婚もしないかなければ、お相手候補もないのに、妙な心配をしています。「そうだね」と返そうものなら、「えーっ？何にもできなくなるの？」と本気で困っています。突っ込みどころ満載ですが、真剣に悩んでいるようです。(垂)

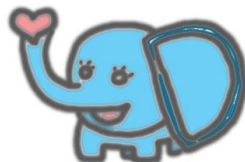
ダンボクラブでは、発達障がいについて広く理解していただくための啓発活動を行っています。ご賛同いただける方の温かいご支援を募集しています。ボランティア活動にご興味のある方、ご寄付いただけます方は、下記までご連絡下さい。

お問い合わせ: damboclub@gmail.com

お振込口座: 伊予銀行 小栗支店 普通 1321818

ゆうちょ記号 16170 番号 25583311

ダンボクラブHP → <https://www.dunboclub.com/>



ダンボ通信

☆第178号☆
発行日: 2024年6月

****ダンボクラブについて****

発達障がいがどのようなものか知っていますか？
 私たちは、そんな子どもたちを育てています。
 この広報は、ダンボクラブがどんな活動をしているのか知っていただくために作りました。



☆☆☆活動報告☆☆☆

★保護者会 5/25 (土)★

臨床発達心理士、特別支援教育士で教諭の新開多恵先生との勉強会がありました。また、松山市発達支援室ふらっとからの報告がありました。

★成人当事者会「ワンピース」5/19(日)★

SSTでポッチャを実施しました。

今回は、「意思決定」というキーワードを意識しながら、ゲームを進めていきました。2名のリーダーを決め、他の参加者はあみだくじでチーム分けをしました。初参加の方も1セット目を見学した後、積極的にゲームに加わり、ファインプレーが出たらハイタッチ、残念な投球のときはチーム内で励まし合うなど、チーム同士、和気あいあいとプレーをしていました。自ら進んで審判してくれたメンバーは、事前にルールブックを勉強するなど、スムーズな進行と公正なジャッジで、まるで公式戦さながらの様子でした。

